資料5

大谷・小鹿周辺地区まちづくりビジョン（案）

※デザイン検討中

大谷・小鹿地区まちづくり検討会議　　令和〇年〇月

目次

・はじめに

・まちづくりビジョンの位置づけ

【将来ビジョン 編】

1．大谷・小鹿周辺地区の特性

2．大谷・小鹿周辺地区の課題

3．ビジョン策定における検討内容

本日、ご意見をいただきたい箇所

4．目指すべきまちの姿とまちづくり方針

<目指すべきまちの姿>

「ひとがつながり、ゆたかな暮らしが続くまち」

<まちづくり方針>

モビリティ　：だれもが行きたい場所に移動でき、次世代の乗り物・サービスで移動がわくわくするまちづくり

エネルギー　：エリアの価値を高めるエネルギーを創り、かしこく使うまちづくり

ウェルネス　：健康増進・環境配慮につながるだれもが健幸になるまちづくり

コミュニティ：地域資源を活かした、顔の見える未来のコミュニティづくり

5．まちづくりメニュー（取組）

6．ビジョンの実現に向けて（推進体制）

【実行計画 編】

1．実行計画（素案）

<資料編>

はじめに

まちづくりビジョン策定の背景

静岡市では、平成25（2013）年3月に「大谷・小鹿地区まちづくりグランドデザイン」（以下、「グランドデザイン」という。）を策定し、土地利用の方針及びその他のまちづくりの基本となる構想を示し、土地区画整理事業が進められています。

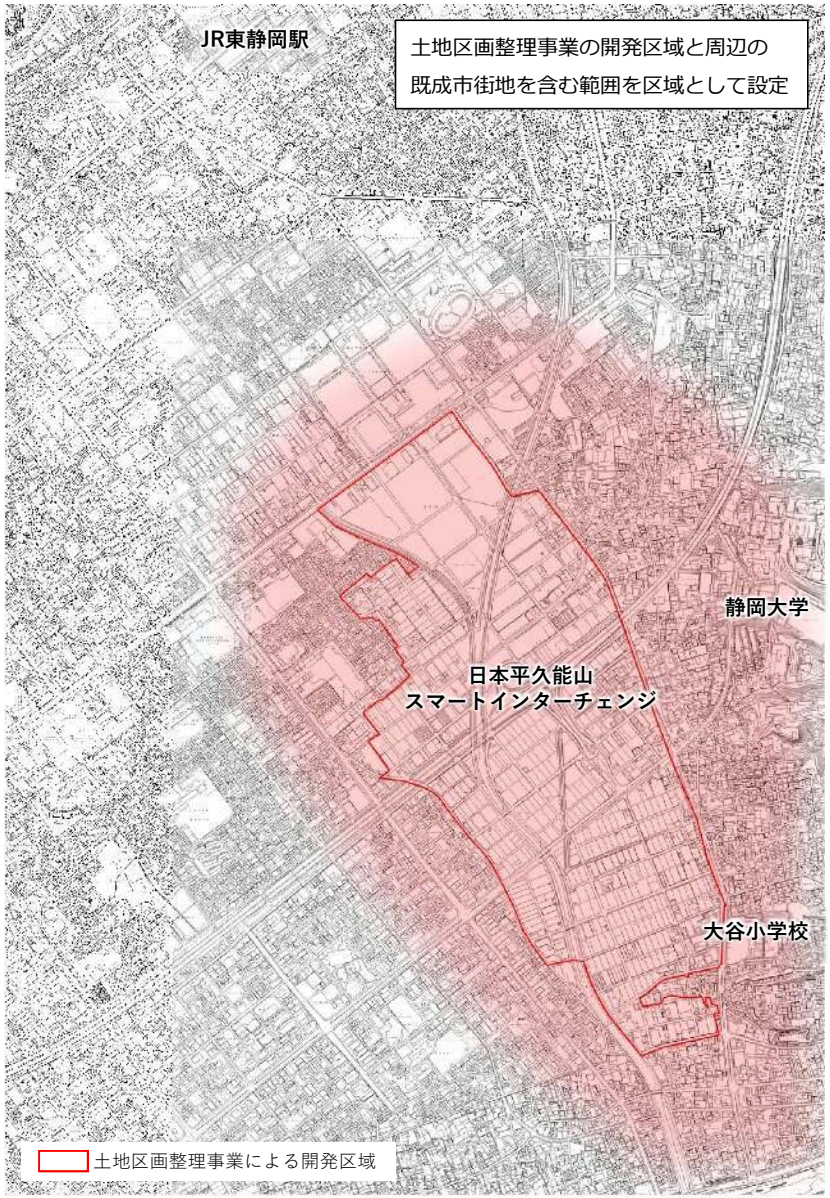
これに基づき、先行整備地区に位置付けられた「恩田原・片山地区」及び「宮川・水上地区」は、組合施行による土地区画整理事業が進められています。しかし、グランドデザインでは、事業完了後のまちづくりの主体や具体的な取組方針といったソフト面の内容は十分な検討がされておらず、SDGsや新型コロナウイルス感染症の影響による新たな生活環境・様式への対応、脱炭素社会への適応などの社会情勢の変化を踏まえ、これらに対応したまちづくりの取組を検討する必要があります。

まちづくりビジョンとは？

まちづくりビジョンとは、エリアに関わる多様な人々が、同じ方向を見てまちづくりを進められるように、目指すべきまちの姿や方針を共有する将来ビジョンと、実現に向けた具体的な取組を示す実行計画で構成されています。

このビジョンを基に、様々な活動が行われていくことで、エリアに住む人、働く人、訪れる人、学ぶ人がゆたかな暮らしを実現し、ウェルビーイングなまちの形成へとつながります。

ビジョンの対象エリア（大谷・小鹿周辺地区）



まちづくりビジョンの位置づけ

【目標期間】

ビジョンの目標期間は、行政計画の「静岡市都市計画マスタープラン」等を踏まえ、2040年としました。
実行計画の目標期間は、短期（2026年～2030年）、中期（2031年～2035年）、長期（2036年～2040年）に区分し、具体的に取組を示して策定します。

【ビジョンの位置づけ】

静岡市

行政計画（上位計画）

- 静岡市都市計画マスタープラン
- 静岡市スマートシティビジョン
- 駿河まなびのまちづくりグランドデザイン

大谷・小鹿地区まちづくりグランドデザイン

平成25年３月策定

『活発に交流し、価値を創り合う創造型産業のまち』
～永きにわたり続く、自ら創るまちづくり～

ハード施策

・土地区画整理による開発区域内の土地利用の基本方針と目指すべき導入機能を定める。

土地利用の基本方針

目指すべき導入機能

連携

ハード利活用
・公園,道路,広場等の利活用
（イベント実施　等）
・サービスや施設機能の導入

大谷・小鹿地区まちづくり検討会議

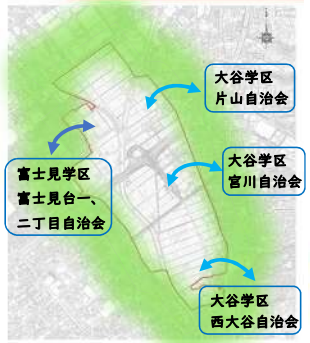
エリアの関係者が連携するためのエリアプラットフォームとして、行政・地域住民・周辺企業・土地区画整理組合・大学・有識者等が集い、目指すべきまちの姿を描き、その実現に向けた取組みについて協議・調整を行うための場として設立された組織です。

策定

大谷・小鹿周辺地区まちづくりビジョン

『ひとがつながり、ゆたかな暮らしが続くまち』

まちづくりビジョン
- ・将来ビジョン
- ・実行計画



ソフト施策

・開発区域とその周辺を含むエリアで、まちづくりにおける活動やサービスなどの具体的な取組を示す。

モビリティ、エネルギー、ウェルネス、コミュニティを柱とした多様な人々のウェルビーイングな暮らしを実現し、スマートなまちづくりを推進するための目標と取組方針を示す。

大谷・小鹿周辺地区
将来ビジョン（案）

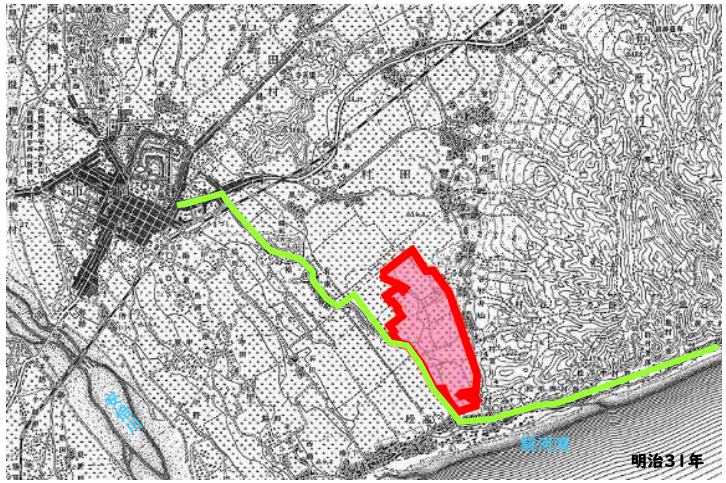
※デザイン検討中

1.　大谷・小鹿周辺地区の特性

（1）地区の成り立ち

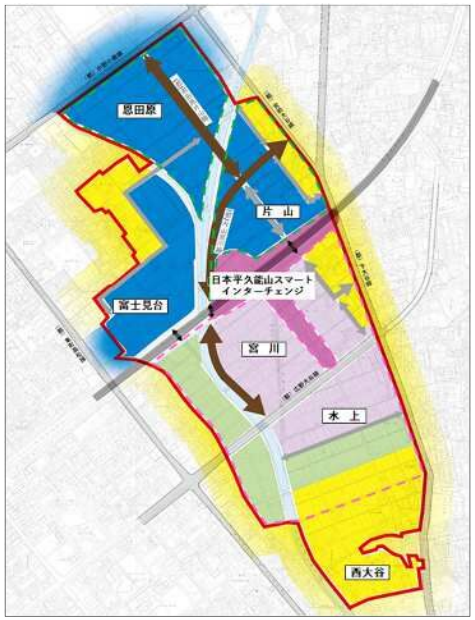
※現在整理中
　大谷・小鹿周辺地区の成り立ちについて記載

過去



現在

未来



1.　大谷・小鹿周辺地区の特性

（2）地区の特性

地区の特性（強み・弱み）

大谷・小鹿周辺地区について、都市構造に係る指標（人口動向・土地利用、都市交通等）をもとに、地区の位置づけや特性を整理しました。

まちの特性	当地区は、南に駿河湾、北に富士山が見えるなど眺望、景観に恵まれた土地である。また、地区の西側から海沿いへつながる久能街道は、久能山東照宮へと続く道で、参勤交代の際には多くの大名の参拝に利用された歴史的な街道である。 農地として活用されていた当地区は、東名高速道路「日本平久能山スマートインターチェンジ」（令和元年9月）の整備に伴い、市内外からのアクセスが向上。大谷・小鹿地区周辺の開発が進む。
用途地域	当地区の北側に工業地域が隣接し、東・西・南側には住宅が広がる。
人口	静岡市の人口は平成25（2013）年以降、減少傾向にある（令和4年7月時点で68.4万人）。 他方、静岡駅周辺・東静岡駅周辺・草薙駅周辺では増加傾向にある。 高齢者率は、市全体および主要駅周辺において、いずれも増加傾向にある（平成31年時点で市全体で29.9%。同年の全国の高齢者率は28.1%）。
交通	当地区の中心からJR静岡駅へは、直線距離で約3.6㎞、JR東静岡駅からは直線距離で約3.1㎞離れており、駅へは車・バス・自転車での移動が必至である。（自動車で静岡駅まで約10分（約5km）、清水港まで約20分（約11km）） 当地区はバス停勢圏（バス停から300mの範囲）外が多く、バス利用は不便といえる。
防災・防犯	当地区は、南海トラフ地震で液状化の被害を受けると想定される。海から近いことから、地震・津波による被害も想定される。

※表に示す地区特性の詳細は資料編を参照

（3）社会的背景

社会的背景（機会・脅威）

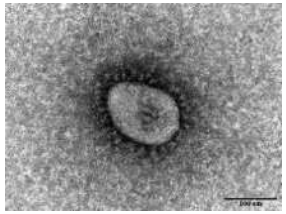
大谷・小鹿周辺地区は、今後長期にわたって新たなまちづくりの推進を予定する地区であり、地区の課題を考える上で、今後の社会的課題・動向を考慮した検討を行う必要があります。ここでは、特に意識すべき社会的課題・動向として、以下の4つを整理しました。

①SDGsの推進

- SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」は、静岡市が目指す「『世界に輝く静岡』の実現」の考えにも通ずるものがあり、持続的なまちづくりを進めるためには、SDGsの視点を取り入れていくことが重要です。
- 当地区においても、SDGsを意識したまちづくりを進めていくべきであると考えます。

②新型コロナウィルスの懸念

- 新型コロナウィルス感染症は、人々のライフスタイル、ビジネススタイルを大きく変える契機となっています。
- 当地区においても、ゆとりある空間の使い方や非接触型のシステムの構築など、感染症対策を意識したまちづくりを進めていくべきです。



出典：国立感染症研究所HP
新型コロナウィルス

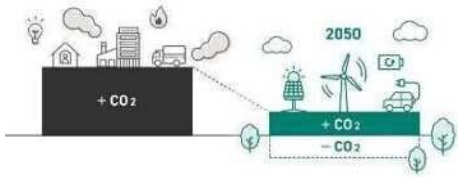
③デジタル技術の進展

- 新型コロナウィルスの感染拡大以降、社会におけるデジタル技術の進展が加速しており、また、国は2021年9月にデジタル庁を発足させるなど、早急な対策を進めています。
- 当地区においても、デジタル技術を活用したまちづくりを進めていくことが重要です。

出典：外務省HP
SDGs17の目標

④脱炭素社会の実現に向けた取組の加速

- 静岡市は、2020年12月、2050年の温室効果ガス排出実質ゼロに向けて取り組んでいくことを静岡市議会において表明しました。
- 当地区内では、恩田原・片山地区が「脱炭素地域」に指定されるなど、他の地区に先んじて脱炭素の取組を推進していくことが求められています。



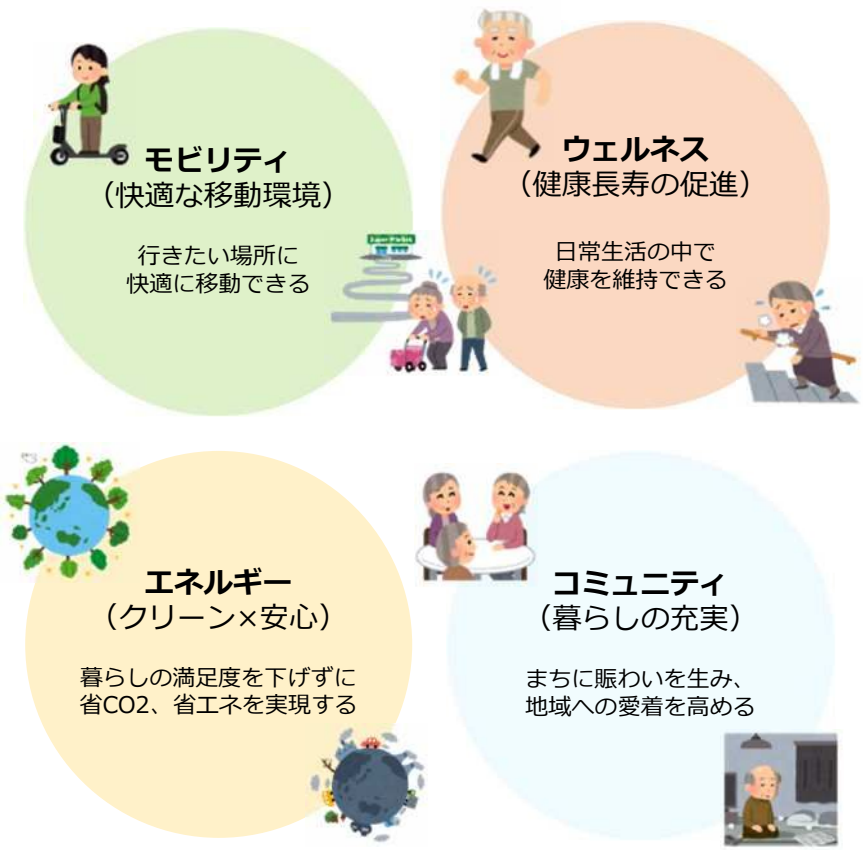
出典：環境省HP
脱炭素のイメージ

2.　大谷・小鹿周辺地区の課題

（1）まちづくりの4つの視点

まちづくりの方向性や将来ビジョンを策定するにあたり、前頁の地区の特性や社会的背景を踏まえながら、モビリティ、エネルギー、ウェルネス、コミュニティの4つの分野に分けた整理を行いました。

まちづくりの４つの視点



（2）地区の課題

地区課題の整理では、各分野において専門家を招き、それぞれの分野に分けてワークショップを行い、課題をまとめました。

＜ 分野別課題のサマリー＞

分野別	解決すべき課題
モビリティ	1. 移動の安全性・快適性向上（歩行者・自転車） 2. 近距離移動の利便性向上 3. 公共交通の利便性向上 4. 多様な移動手段の効果的な活用 5. 自動車利用の適正化 6. 自動運転技術への対応 7. 地区周辺移動の把握 8. 物流の効率化
エネルギー	1. 脱炭素社会実現への取組 2. 既存の自然資源の保全・活用 3. 地区内での電力の自給自足 4. 災害対応力の強化 5. 個人単位での電力消費の低減（省エネ） 6. 自動車以外の移動手段の充実
ウェルネス	1. 移動の安全性・快適性向上（歩行者・自転車） 2. 歩き、健康維持の動機づくり 3. 目的地となる魅力あるまちづくり 4. 歩き、健康に関する意識・意欲向上 5. 歩き、健康維持を通じた交流拡大 6. 医療・福祉との連携
コミュニティ	1. 交流拠点となる場の創出 2. 交流プラットフォームの構築 3. 多様な主体の交流機会の創出（日常） 4. 多様な主体の交流機会の創出（イベント） 5. 地域資源の有効活用・継承 6. 新たな地域資源の発掘 7. 安全・便利・快適な生活環境の実現 8. 新しい日常への適応

※表に示す課題の詳細は資料編を参照

3.　ビジョン策定における検討内容

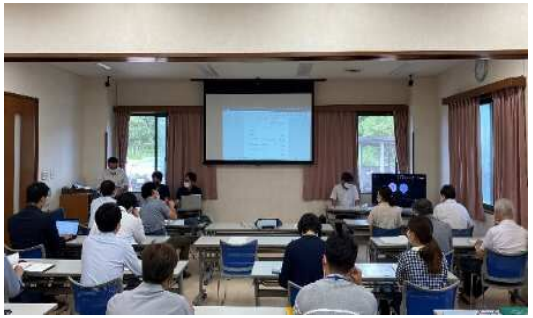
検討経緯

検討会議の設立等
ワークショップ実施
説明文

● 第１回検討会議（R4. 7.14）

（1）大谷・小鹿地区の現状を知る
地区特性やこれまでの検討・整備状況等から、
大谷・小鹿地区の「今」を把握

大谷・小鹿地区まちづくり検討会議の発足



● 第２回検討会議（R4.10.27）　●第３回検討会議（R4.12.8）　●第４回検討会議（R5.2.2）

（2）現状と将来の課題を考える
地区の現状を踏まえて、 4つの視点から、地区の特徴や課題を整理

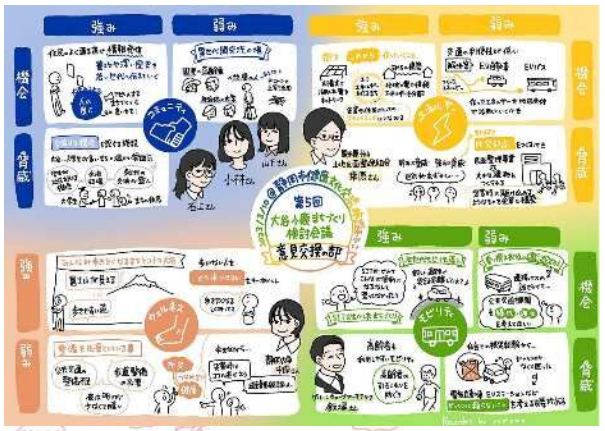
令和４年度（2022度）　● 第１回（R4. 7.14）　● 第２回（R4.10.27）　●第３回（R4.12.8）　●第４回（R5.2.2）　● 第５回　（R5.3.10）

●第３回検討会議（R4.12.8）

●第４回検討会議（R5.2.2）

● 第５回検討会議　（R5.3.10）

（3）目指すべきまちの姿を描く
地区の弱み・強み、機会・脅威（SWOT）と、検討課題（取組テーマ）の関係を再整理し、今後の地区の取組の方針について検討



3.　ビジョン策定における検討内容

●第６回検討会議（R５.6.29）

（４）まちづくりの戦略をたてる
　目指すまちの姿の実現に向け、どのようにまちづくりを進めるか検討

●第７回検討会議（R５.9.7）　●分科会の開催（R５.10.25）

（５）まちづくりのメニューを考える
課題解決に向けた具体的なアクションを検討

令和５年度（2023年度）●第６回検討会議（R５.6.29）　●第７回検討会議（R５.9.7）　●分科会の開催（R５.10.25）

●第８回検討会議（R５.12.14）

●第９回検討会議（R６.３.○）

「大谷・小鹿周辺地区将来ビジョン」策定

4.　目指すべきまちの姿とまちづくり方針

まちの現状や課題を踏まえて目指すべきまちの姿と、4つのまちづくり方針を示します。

目指すべきまちの姿

「ひとがつながり、ゆたかな暮らしが続くまち」

大谷・小鹿周辺地区では、日本平久能山スマートインターチェンジの供用開始に伴う土地区画整理事業が行われています。今後、新しい技術の導入や環境整備が進み、多くの人が訪れることで、多様な人々による様々な活動が行われていきます。既存の地域と新たな開発区域が互いを受け入れ、ひとがつながり、活動がつながり、地域がつながることで、住む人・働く人・訪れる人・学ぶ人などを含むすべての人が持続的にゆたかな暮らしを実現し、ウェルビーイングなまちの形成につながっていきます。

まちづくり方針

だれもが行きたい場所に移動でき、次世代の乗り物・サービスで移動がわくわくするまちづくり

歩行・自転車・公共交通・次世代の新たなモビリティなど多様な移動手段の有効活用により、移動の選択肢を増やし、自家用車に頼らない誰もが行きたい場所に移動できるまちを目指します。

健康増進・環境配慮につながるだれもが健幸になるまちづくり

産学官民が連携して誰もが健康になれる環境や仕掛けづくりをし、健康増進意識を高めます。運動や外出をすることによる交流から、心と体の健康を育み、ゆたかな暮らしの実現を目指します。

エリアの価値を高めるエネルギーを創り、かしこく使うまちづくり

脱炭素社会の実現に向け、エリア内の電力の自給自足や他施設等への電力融通について検討を進めます。またエネルギー消費を減らす取組として、個人単位での活動や新たな緑の確保等を推進します。
エネルギーをエリア内で考える事でエリアの価値を高めます。

地域資源を活かした、顔の見える未来のコミュニティづくり

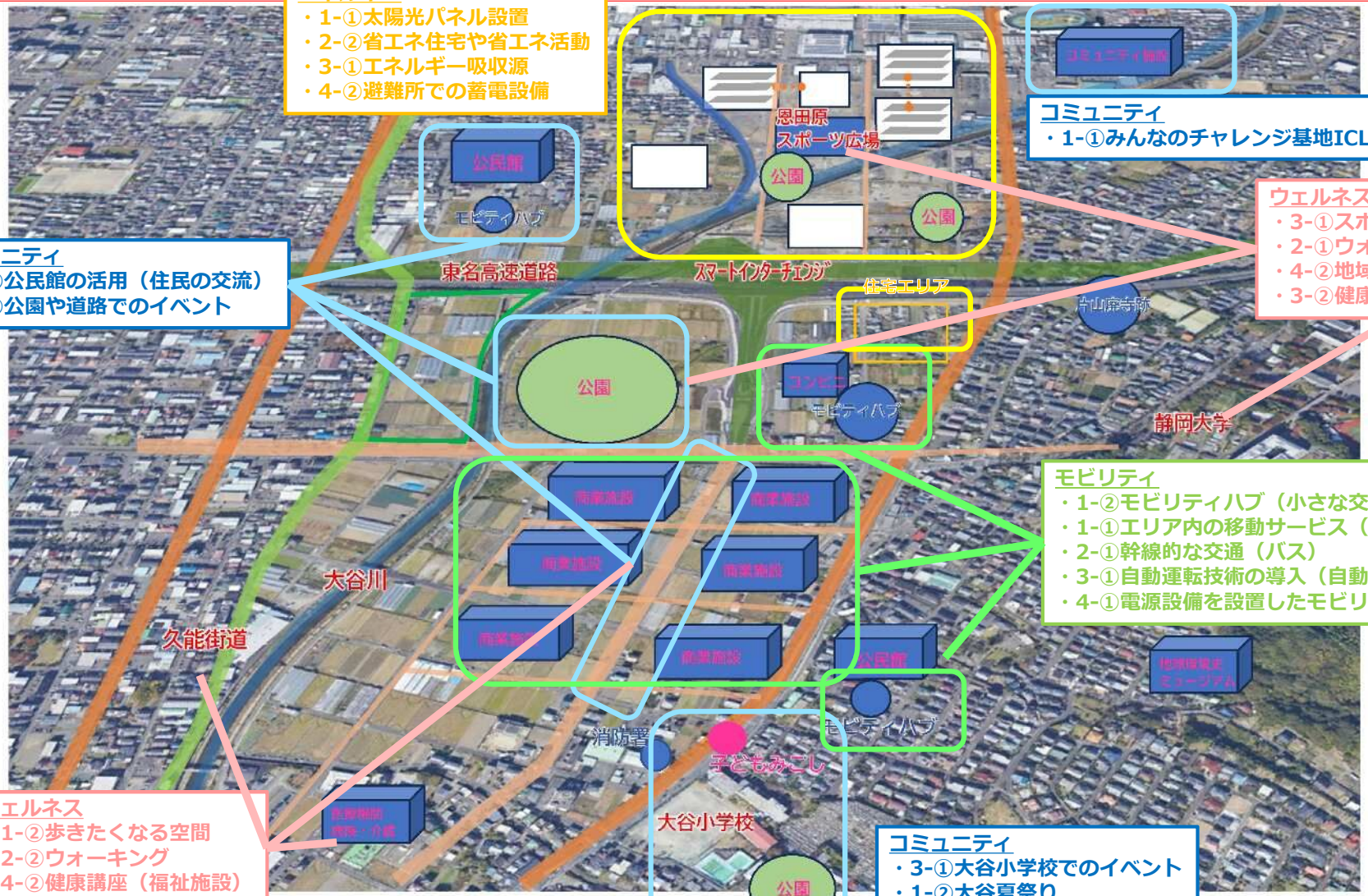
エリアの歴史的・人的資源を活かし、住む人、働く人、訪れる人、学ぶ人などを含む多様な人々との連携を図ります。
多様なコミュニティづくりが、未来の持続可能なまちづくりへと繋がります。

横断的な取組による相乗効果

4 つの個々の取組みが複数の取組を横断的・総合的に行うことで、相乗効果をもたらします。

4.　目指すべきまちの姿とまちづくり方針（イメージパース）

検討会議に参加していない人でも理解しやすいように大谷・小鹿周辺地区の「人の活動」を視覚的にイメージを共有するため、４つの視点のまちづくりメニューに記載されている活動（アクティビティ）を書き込む



エネルギー
- 1-①太陽光パネル設置
- 2-②省エネ住宅や省エネ活動
- 3-①エネルギー吸収源
- 4-②避難所での蓄電設備

コミュニティ
- 1-①みんなのチャレンジ基地ICLa（ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ）

ウェルネス
- 3-①スポーツイベント
- 2-①ウォーキングコース
- 4-②地域見守り隊
- 3-②健康講座

コミュニティ
- 2-①公民館の活用（住民の交流）
- 3-②公園や道路でのイベント

モビリティ
- 1-②モビリティハブ（小さな交通結節点）
- 1-①エリア内の移動サービス（ｼｪｱﾘﾝｸﾞｻｰﾋﾞｽ）
- 2-①幹線的な交通（バス）
- 3-①自動運転技術の導入（自動運転バス）
- 4-①電源設備を設置したモビリティハブ

ウェルネス
- 1-②歩きたくなる空間
- 2-②ウォーキング
- 4-②健康講座（福祉施設）

コミュニティ
- 3-①大谷小学校でのイベント
- 1-②大谷夏祭り
- 4-①防災訓練（蓄電設備）

※将来イメージです。

5.　まちづくりメニュー（取組）

だれもが行きたい場所に移動でき、次世代の乗り物・サービスで移動がわくわくするまちづくり

1．エリア内で多様な移動手段を利用できる環境づくり（エリア内移動）

1－①　ラストワンマイル移動のためのきめ細かな交通サービスの導入
（取組例：デマンド交通、シェアリング型移動サービス、パーソナルモビリティの導入 等）

1－②　多様な移動手段を利用できる拠点づくり
（取組例：多様な交通サービス等の乗降箇所を集約したモビリティハブ（小さな交通結節点・地域拠点）の形成 等）

1－③　交通サービスの連携に向けたデータの利活用

2．エリア内と都市拠点を結ぶ快適な移動手段を利用できる環境づくり（エリア内外）

2－①　高齢者や子育て世代等が安全に移動できる幹線的な交通サービスの導入
（取組例：車いす・ベビーカー等に対応した低床車両の幹線バス 等）

2－②　働く人・訪れる人・学ぶ人が快適に利用できる交通サービスの導入
（取組例：周遊バス、送迎バス、連接バス、自転車利用サービス 等）

2－③　交通サービスの連携に向けたデータの利活用

3．次世代モビリティの積極的な導入検討（次世代モビリティ）

3－①　少子高齢化時代に対応した先進的な自動運転技術の導入
（取組例：自動運転バス 等）

3－②　人材不足に対応した物流サービスの導入
（取組例：自動搬送ロボット・ドローンの活用 等）

3－③　交通サービスの連携に向けたデータの利活用

4．災害時にも利用できる移動環境の整備（防災）

4－①　災害時における移動・避難のためのモビリティの確保
（取組例：余剰電力を活用した電動小型モビリティ等の導入、自転車の活用 等）

4－②　災害時においても物資やエネルギー等を輸送できるモビリティの活用
（取組例：非常用電源としての電動小型モビリティ等への活用、ドローン等による物資輸送 等）

■取組イメージ

1-②多様な移動手段を利用できる拠点づくり
ーモビリティハブ

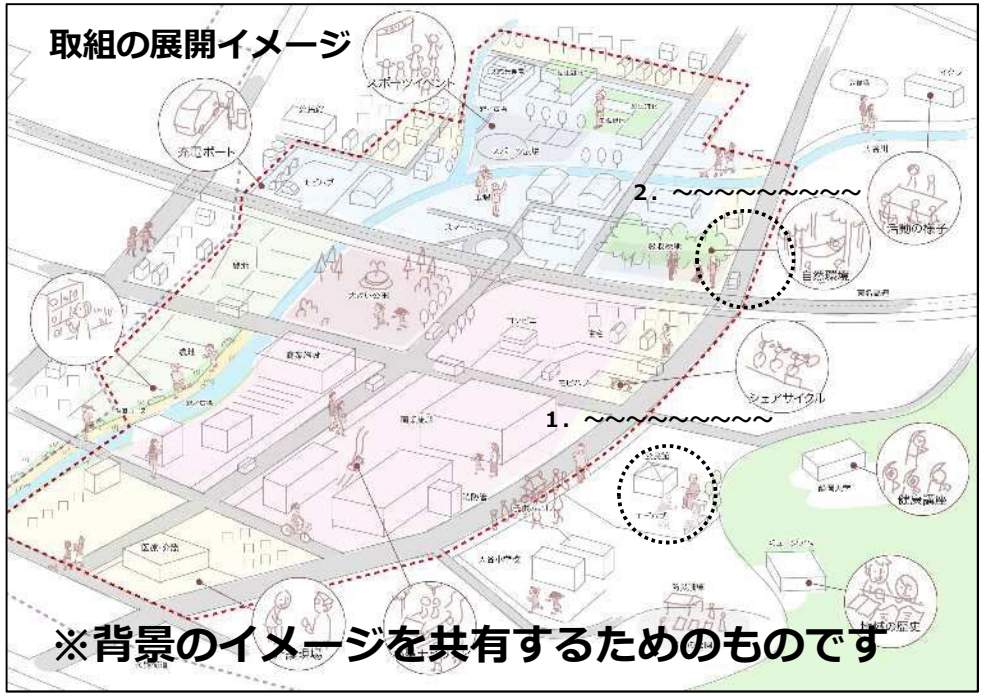
写真：渋谷SMILEモビリティハブ

2-②快適に利用できる交通ｻｰﾋﾞｽの導入
ー連接バス

写真：新潟BRTの連接バス

3-②物流サービスの導入
ー配送ロボット

写真：宅配ロボット



1．モビリティハブ

全体パース中該当部分の拡大

2．連接バス

全体パース中該当部分の拡大

3．自動運転バス

全体パース中該当部分の拡大

4．モビリティハブ（電源設備）

全体パース中該当部分の拡大

5.　まちづくりメニュー（取組）

エリアの価値を高めるエネルギーを創り、かしこく使うまちづくり

1．エリアでエネルギーを創る（創エネ）

1－①　施設を活用したクリーンエネルギーの創出
（取組例：地区特性を活かした太陽光発電 等）

1－②　地域資源を活用したクリーンエネルギーの創出
（取組例：水素発電、バイオマス発電 等）

2．エリアでエネルギーをかしこく使う（省エネ・エネマネ）

2－①　エリア内のエネルギーの融通
（取組例：施設間・地域間・分野間でのエネルギー融通、電動小型モビリティ等への利用 等）

2－②　エネルギー効率の良い建物の推奨
（取組例：ZEB・ZEH等の省エネルギー住宅・建築の導入 等）

2－③　脱炭素ライフスタイルの構築
（取組例：公共交通や電気自動車など環境負荷の低い生活行動の推進、省エネ行動を意識づけるエネルギーの見える化、省エネ・節電行動に係るイベントの開催、省エネガイドラインの作成 等）

3．ゆたかな自然環境形成と連動した温室効果ガスの吸収源確保（吸収源）

3－①　緑の形成・維持によるグリーンカーボンの取組
（取組例：街路樹等の植樹・維持、公共空間や民地を含めたグリーンネットワーク、生物多様性確保のためのエコロジカルネットワークの創出 等）

3－②　水辺環境の形成・維持によるブルーカーボンの取組
（取組例：河川や貯水池等における自然河岸・湿地の形成・確保 等）

4．災害に対応した自律的なインフラづくり（防災）

4－①　個々の建物や避難所等におけるクリーンエネルギー発電設備の整備

4－②　避難所等における蓄電施設や非常電源の整備

■取組イメージ

1-①施設を活用したｸﾘｰﾝｴﾈﾙｷﾞｰの創出
ー地区特性を活かした太陽光発電

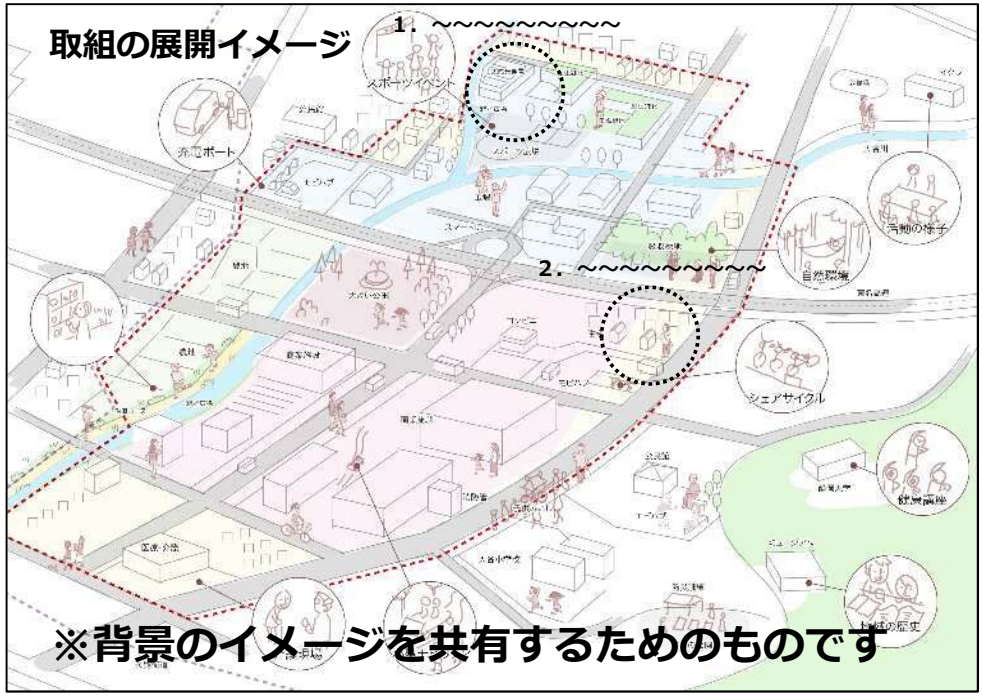
写真：恩田場・片山地区

3-①よるグリーンカーボン取組
ーグリーンネットワーク

写真：グリーンインフラ

4-②避難所等における蓄電池設備の設置
ー静岡市エネルギーの地産地消事業

写真：飯田小学校（静岡HP）



1．恩田原片山地区の工場

全体パース中該当部分の拡大

2．住宅エリア

全体パース中該当部分の拡大

3．恩田原片山地区の工場（グリーンインフラ）

全体パース中該当部分の拡大

4．公園（防災訓練）

全体パース中該当部分の拡大

5.　まちづくりメニュー（取組）

健康増進・環境配慮につながる
だれもが健幸になるまちづくり

1．だれもが健幸になる環境づくり

1－①　安全・安心に運動や移動が行える環境整備
（取組例：快適な歩行空間や自転車走行空間の整備、休憩場所の設置 等）

1－②　外出したくなる景観や目的地の形成
（取組例：歩いていて心地よい街並みの形成、目的地となる魅力的な空間整備 等）

2．だれもが健幸になる仕掛けづくり

2－①　運動するきっかけづくり
（取組例：身体活動に関するインセンティブ付与、ウォーキングマップ等を作成し情報発信、自転車利用サービスの充実 等）

2－②　自ずと歩いてしまう仕組みづくり
（取組例：モビリティ分野と連携した公共交通の充実による歩行中心のライフスタイルの構築　等）

3．健康維持や運動に関する機会・意識づくり

3－①　健康イベントの開催・運営
（取組例：スポーツ・ウォーキングイベントの開催、食や交流を目的とした健康イベントの実施 等）

3－②　健康に関する知識の習得
（取組例：地域住民を対象とした健康講座の開催 等）

4．医療・福祉・防災活動との積極的な連携

4－①　医療機関・福祉施設との連携
（取組例：病気の予防に関する取組実施、社会福祉協議会と連携した取組 等）

4－②　防災活動との連携
（取組例：地域見守り隊の実施、ハザードマップとウォーキングの連携、避難施設の日常利用 等）

■取組イメージ

1-②外出したく景観や目的地の形成
ー安心・安全な歩行空間

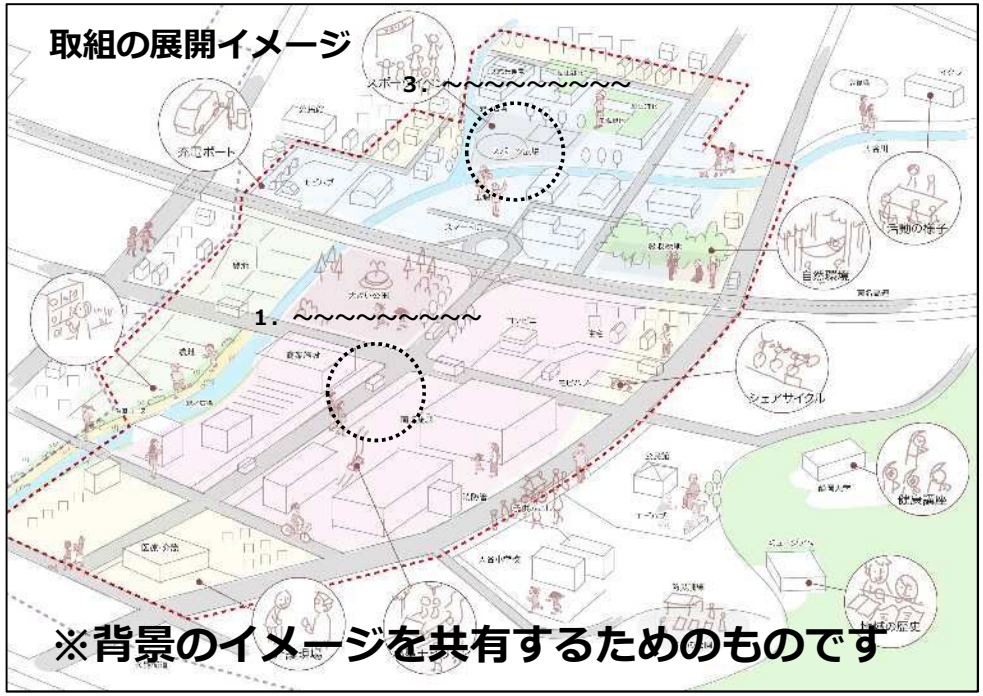
写真：姫路市

2-①運動するきっかけづくり
ーウォーキングマップの作成

写真：久能街道ウォーキング

3-①健康イベントの開催・運営
ースポーツイベント（公共空間活用）

写真：恩田原スポーツイベント



1．宮川・水上メインストリート

全体パース中該当部分の拡大

2．久能街道のウォーキング

全体パース中該当部分の拡大

3．恩田原スポーツ広場

全体パース中該当部分の拡大

4．静岡大学での健康講座

全体パース中該当部分の拡大

5.　まちづくりメニュー（取組）

地域資源を活かした、顔の見える未来のコミュニティづくり

1．多様な交流が生まれるプラットフォームづくり

1－①　まちづくりに係る多様な活動を行うプラットフォームの設置・運営
（取組例：エリアプラットフォームの運営・機能強化、活動の企画・実行する分科会の設置、みんなのチャレンジ基地ICLa 等）

1－②　地域の歴史・文化の継承
（取組例：新旧世代の交流機会創出、地域資源を活用した体験学習やワークショップの開催、地域のお祭りの継承 等）

2．多様な交流のための拠点・場づくり

2－①　多様な人々が集まることができる交流空間の設置・運営
（取組例：誰もが使える開かれた居場所づくり、会議やイベントを行う空間の確保、情報発信や共有のための場づくり、公民館等の有効活用 等）

2－②　まちのシンボル・ランドマークの形成
（取組例：地域の愛着を醸成するデザインされた建築、公共空間・公園等のモニュメント、目印となるシンボルツリーの育成 等）

3．多様な交流のための機会づくり

3－①　地域の人々による交流機会づくり
（取組例：多様な人材が交流するイベント開催、ウェルネス分野と連携したイベント開催 等）

3－②　新たな人々との交流機会づくり
（取組例：地域住民と開発エリアで新たに働く人や来訪する人との交流、地域と大学生の交流、企業と連携したインターンシップの実施 等）

4．防災活動や社会情勢等の変化への対応

4－①　地域防災の強化
（取組例：日常的な孤立化を防ぎ災害時にも助け合える体制づくり、コミュニティフリッジの実施 等）

4－②　社会情勢等の変化への対応
（取組例：コワーキングスペースの創出 等）

■取組イメージ

1-①プラットフォームづくり
―みんなのチャレンジ基地ICLa

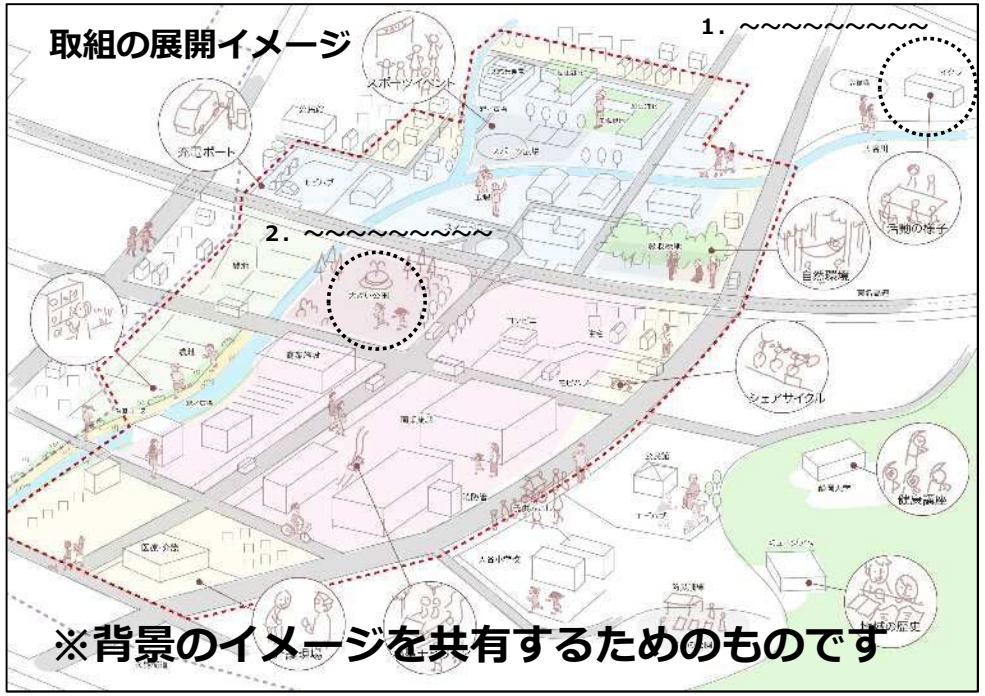
写真：ICLaホームページ

1-②地域の歴史・文化の継承
―地域のお祭りの継承

写真：大谷夏祭り（静岡市撮影）

3-①地域の人々による交流機会づくり
―多様な人材が交流するイベント開催

写真：バンビーノ・プロジェクト（静岡市撮影）



1．コミュニティ施設（ICLa）

全体パース中該当部分の拡大

2．宮川・水上地区内の公園

全体パース中該当部分の拡大

3．大谷小学校（地域イベント）

全体パース中該当部分の拡大

4．公園での避難訓練

全体パース中該当部分の拡大

6.　ビジョンの実現に向けて（推進体制）

（１）ビジョン策定の検討体制

ビジョンの策定体制

今後検討

（２）将来ビジョン運用に向けた組織体制

将来ビジョンの推進体制

実行計画の推進体制

大谷・小鹿周辺地区
実行計画（素案）

※デザイン検討中

1.　実行計画（素案）

各取組の実施時期、実施主体を整理しました。

分野別 方針	取組		時期		
			短期 （2026年～2030年）	中期 （2031年～2035年）	長期 （2036年～2040年）
だれもが行きたい場所に移動でき、次世代の乗り物・サービスで移動がわくわくするまちづくり	1－①		→	→	→
	1－②		→	→	→
	2－①			→	→
	2－②				→
	3－①				
	3－②				
	4－①				
	4－②				
エリア価値を高めるエネルギーを創り・かしこく使うまちづくり	1－①				
	1－②				
	2－①				
	2－②				
	3－①				
	3－②				
	4－①				
	4－②				

1.　実行計画（素案）

各取組の実施時期、実施主体を整理しました。

分野別 方針	取組		時期 短期 （2026年～2030年）	中期 （2031年～2035年）	長期 （2036年～2040年）
健康増進・環境配慮につながるみんなが健幸になるまちづくり	1－①		→	→	→
	1－②		→	→	→
	2－①			→	→
	2－②				→
	3－①				
	3－②				
	4－①				
	4－②				
地域資源を活かした、顔の見える未来のコミュニティづくり	1－①				
	1－②				
	2－①				
	2－②				
	3－①				
	3－②				
	4－①				
	4－②				